

4 まちづくり拠点

大子町の中心市街地の活性化は、まちの中に“拠点”を形作り、これを結びつけながら、その効果を市街地全体に波及させていきます。

4-1 中心市街地における諸機能の配置と連携の方針

中心市街地の活性化の基本方針とした「住民の暮らしを良好に保つこと」と「観光客が市街地を楽しめること」の実現に向けて、中心市街地のまちづくりは、地域に特に大きな刺激や影響を与える「拠点機能」と「拠点機能間の連携・補完関係」が重要となります。

そこで、既存の拠点である「大子町文化福祉会館（まいん）」、「JR 常陸大子駅」、「道の駅奥久慈だいご」、さらに「町有地を活用した新たな拠点」を加えて、それぞれの役割や機能を次のとおりとします。

■もてなし拠点「大子町文化福祉会館（まいん）」

「まいん」は、JR 常陸大子駅前に位置する利便性を活かし、文化・福祉に関する住民サービスを提供すると共に、福祉面からの観光支援（例 観光客への託児支援など）機能を付加した「もてなし拠点」とする。

■観光地間連結拠点「JR 常陸大子駅」・「道の駅奥久慈だいご」

2つの国道が交わる道の駅奥久慈だいごと、鉄道とバスなどの乗り換え拠点であるJR 常陸大子駅を起点として、袋田の滝などの町内主要観光地からまちなかに誘導するためのハブとなる「観光地間連結拠点」とする。

■町民と来訪者の学びの拠点「町有地を活用した新たな拠点」

町有地は、老若男女を問わず幅広い町民の知識・学習意欲を満たし、郷土への愛着を高めると共に、来訪者がすばらしい大子の見聞を深め、より好感度を高める場とし、中心市街地の新しい賑わいにもつながる「学びの拠点」とする。

【互いの連携・補完によって無理なく相乗効果を得る】

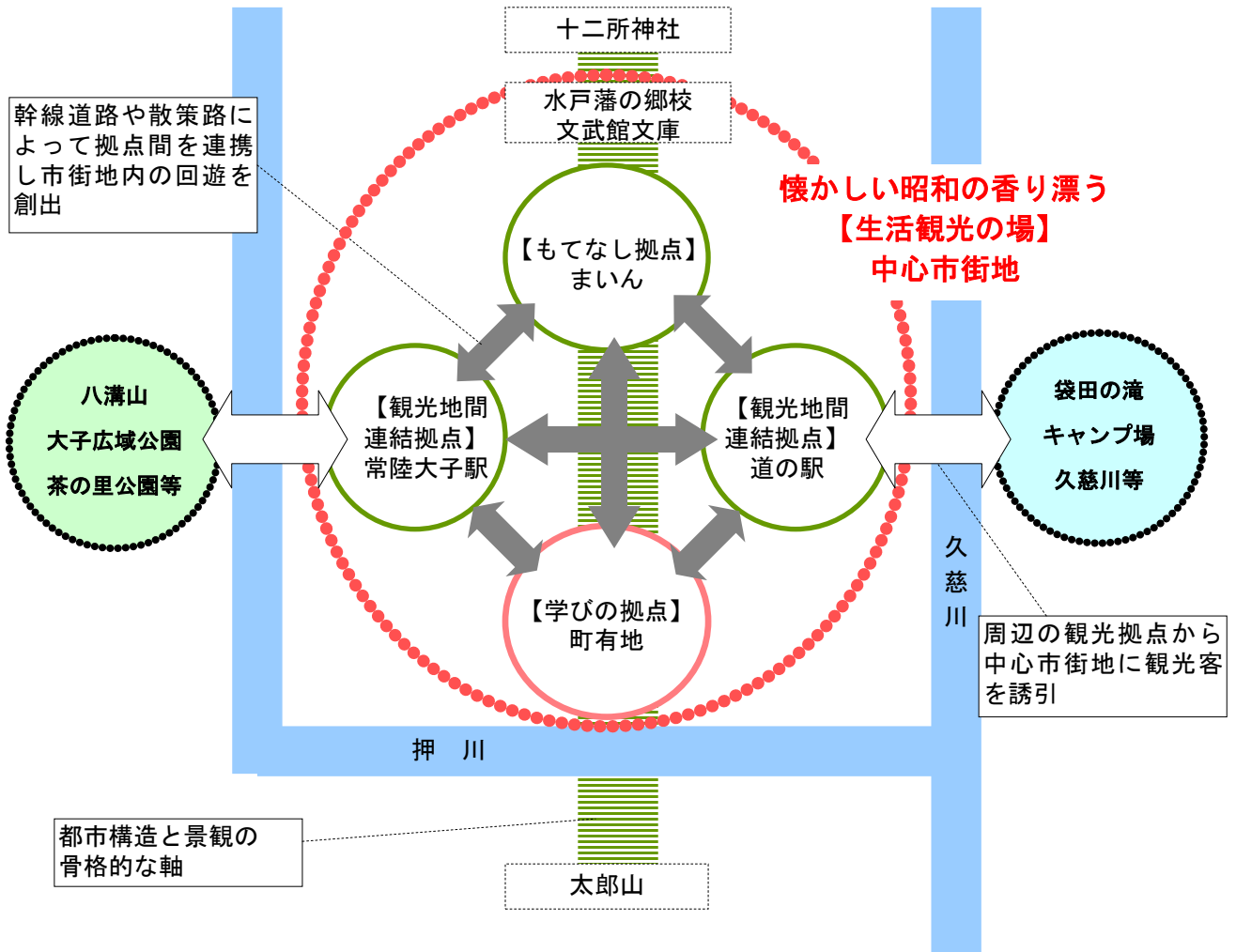
■生活観光の主役「中心市街地」

中心市街地が持っている生活機能と観光資源の2つの顔を融合させ、昭和の香りがする懐かしい市街地を形成します。

普段通りの商店や公共公益施設と住宅地が集積する生活機能を保ちつつ、昭和の香りがするような仕掛けやメイクアップを図り、生活の場自体が来訪者にとって新鮮な場になるようにします。

歴史的建築物の街並みと水路や路地などを活用した観光・散策機能を高めることで観光客をもてなすことに加え、生活者にとっても防災面や景観面での貢献、さらには地域の魅力となるようにします。

【中心市街地周辺における諸機能の配置と連携の概念】



4-2 町有地を活用した新たな拠点形成の方向性

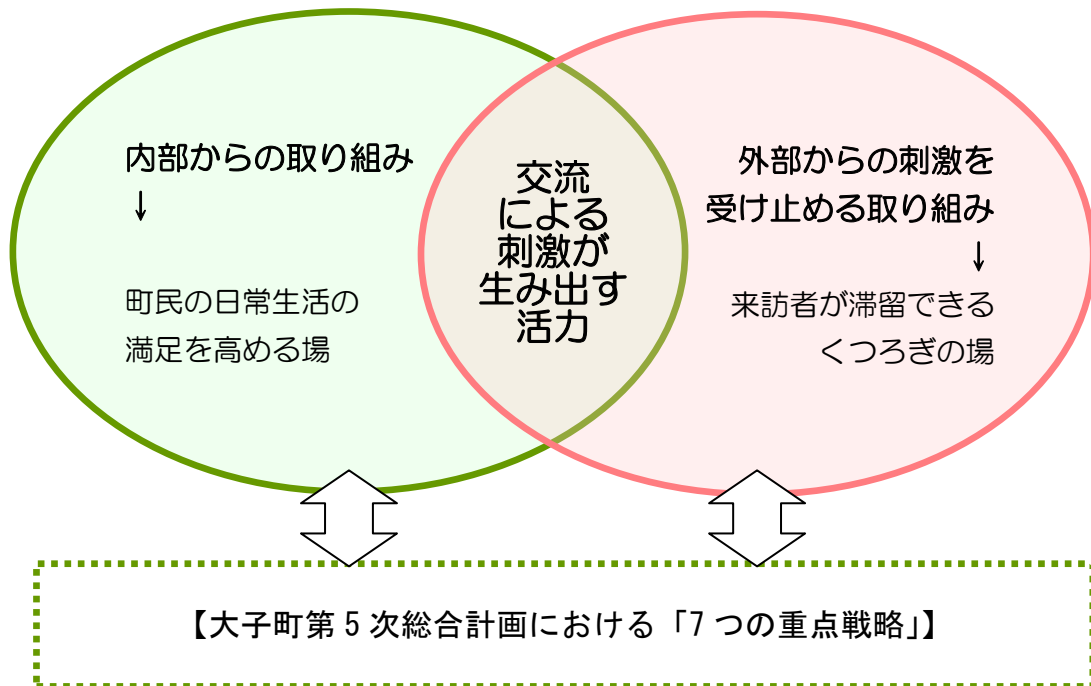
「中心市街地における諸機能の配置と連携の方針」に示した、町有地を活用する「学びの拠点」の詳細は次のとおりです。

大子町第5次総合計画では、「まちづくりの基本方向」を「住みよいまち」「活力あるまち」「美しいまち」の3つの目標を掲げており、これを実現するため2つの基本姿勢として、「内部からの活性化」と「外部からの活力導入」としています。

そこで、このような考え方を中心市街地や町有地の活用に当てはめてみると、「内部のための取り組み」と、「外部のための取り組み」の両面から「生活と観光」に着目し、「町民の日常生活の満足度を高める場」と同時に、「来訪者が滞留できるくつろぎの場」であることが重要と考えられます。

さらに、総合計画では、「7つの重点戦略」を掲げており、この戦略に対して貢献することを目指す視点から、「学びの拠点」については、7つの戦略にできるだけ幅広く関連するものを目指すことが重要です。

【町有地を活用した新たな拠点の方向性】



【参考資料 大子町第5次総合計画におけるまちづくりの基本方向】



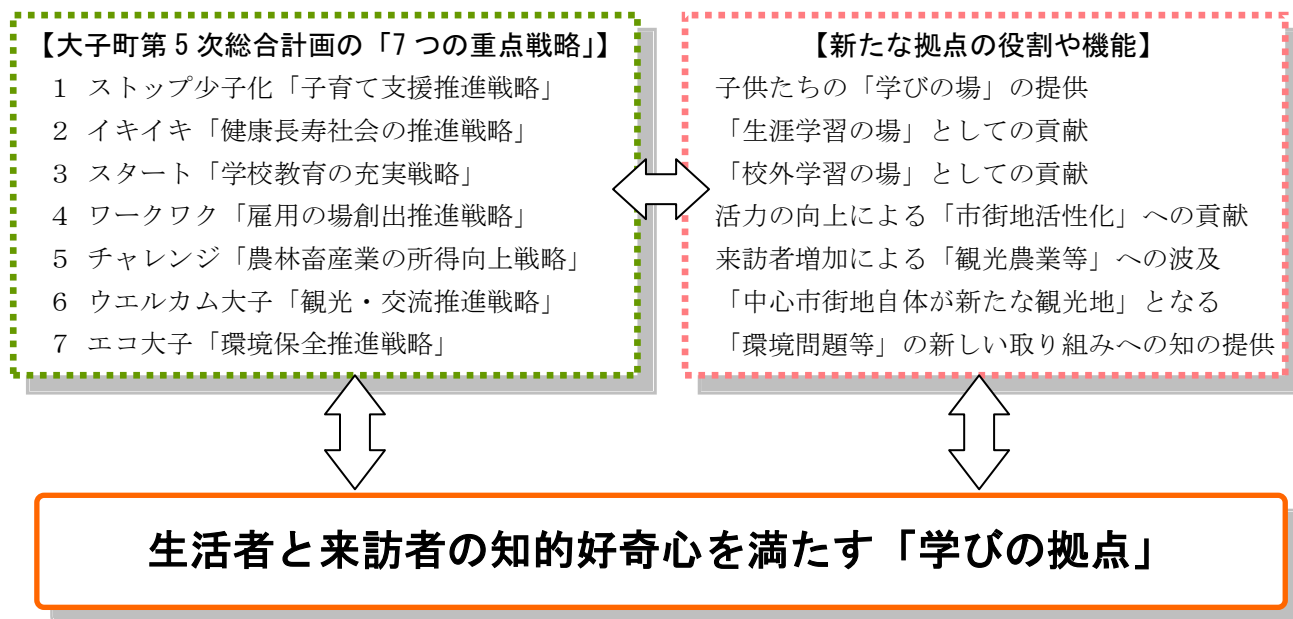
4-3 新たな拠点の基本的な役割や機能

新たな拠点形成の方向性や総合計画の考え方などを踏まえ、「学びの拠点」の基本的な役割や機能については、次のとおりとします。

生活者である町民に対しては、さまざまな町民が見識を高めると共に、ふるさとの良さを再発見することで愛着を育み、今まで以上に誇りをもって住み続けられる希望とするものです。

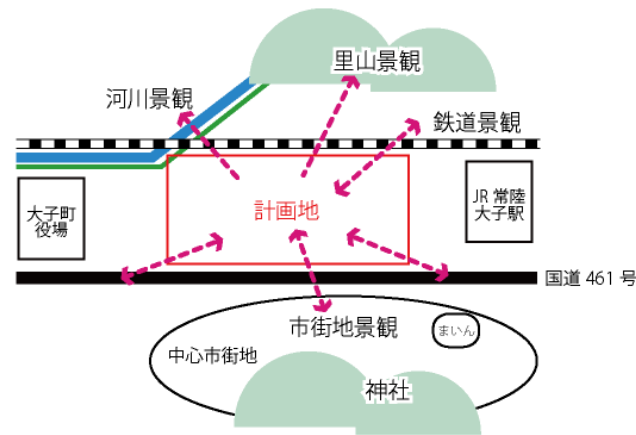
来訪者である町外居住者に対しては、大子町の良さを知ることによって魅力を高め、やがてはリピーターや定住化につなげる希望とするものです。

このような生活者と来訪者の「知ること」や「学ぶこと」に対する欲求に応える“うつわ”を用意することで、中心市街地の活性化の一助となることを期待します。



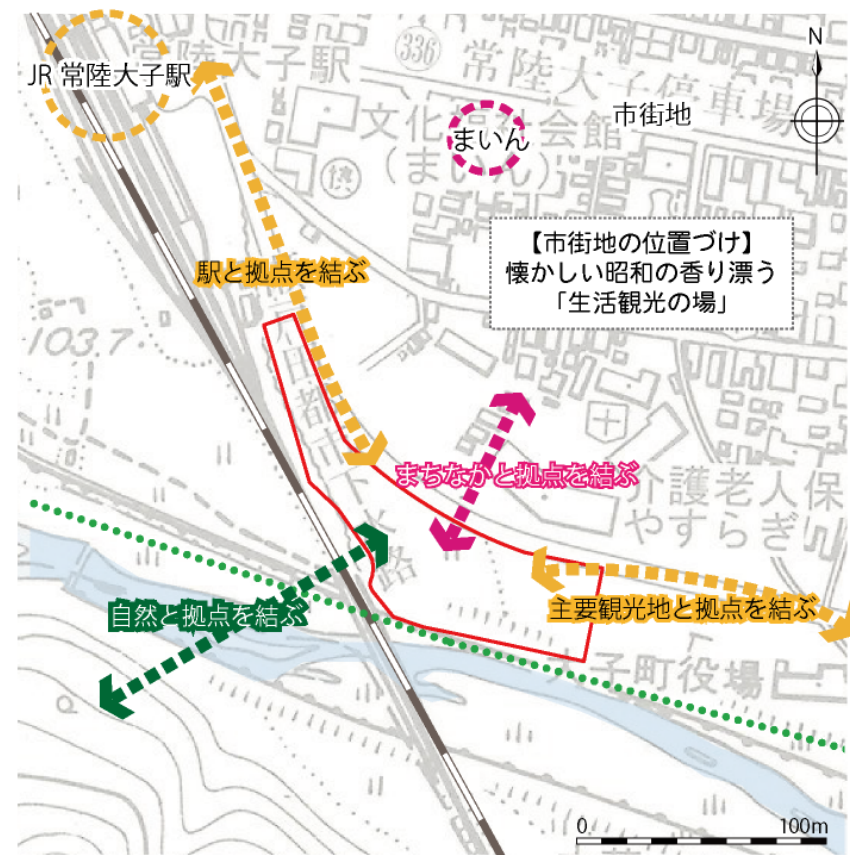
4-4 文化交流拠点基本構想図

■計画地と周辺の関係性

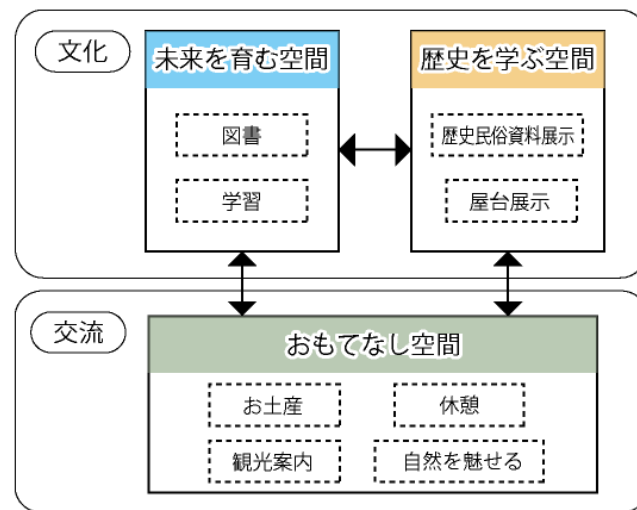


対象地は、国道 461 号沿いに面しており、周辺には山地や河川など大子らしい自然景観のほか、JR 水郡線を走る鉄道などの眺望を楽しむことができる。また、計画地自体もそれらから「見られる」関係にあるため、印象的な景観形成が求められる。

周辺には、JR 常陸大子駅周辺の中心市街地があるほか、駅や主要な観光施設や拠点なども近接することから、これらとの連携・連絡を図ることで、中心市街地全体の活性化に繋がる施設とすることが重要である。



■導入機能と各機能の関係性



各機能の関係性

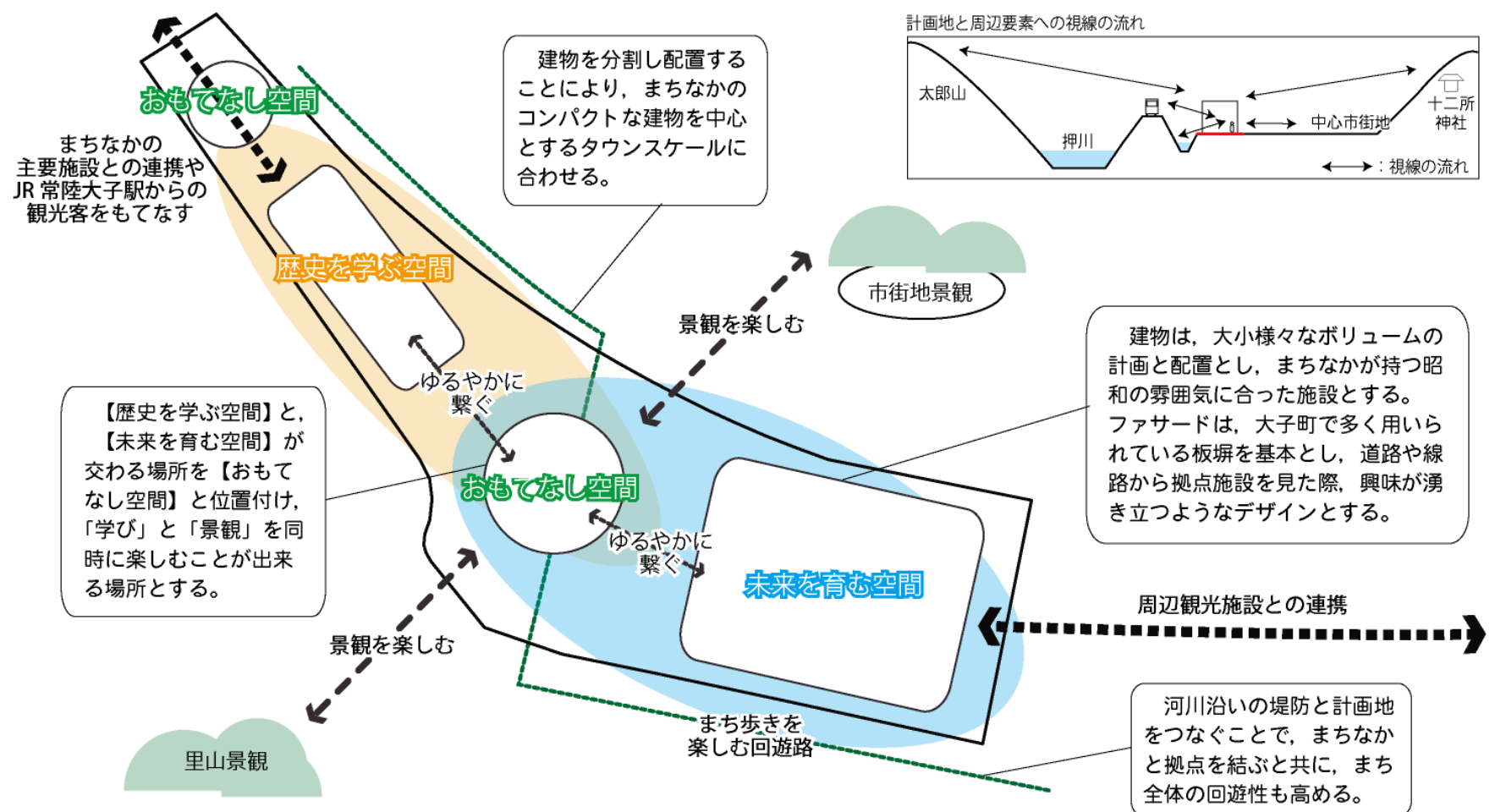
文化交流施設は、住民のまちなかでの生活に潤いと活力を与える機能と、大子町に伝わる歴史や文化を伝える機能、そしてそれらを結ぶ大子らしいおもてなし観光機能を導入する。

まちなか住民の生活の魅力向上と子供たちに学ぶ大切さを伝える場を【未来を育む空間】とし、図書スペースや学習スペースを設置する。今後の大子町の未来を担っていく人材の育成の場としても機能する。

大子町の魅力を高め、まちなかで大切にされている歴史文化活動や農林業などの生業を知る場を【歴史を学ぶ空間】とし、歴史文化継承の場として機能する。

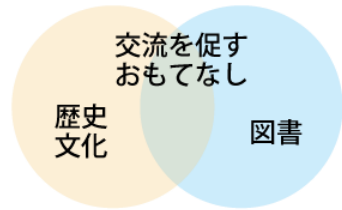
大子の伝統や知識に浸りながら、里山景観や市街地景観を魅せる場を【おもてなし空間】とし、住民と来訪者の交流を促進する場として機能する。

■敷地ゾーニングと建築の考え方



■文化交流拠点のコンセプト

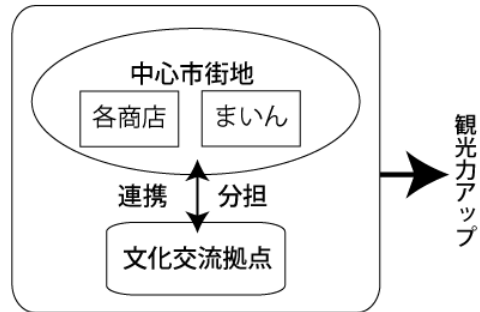
文化交流拠点は、大子町の住民同士や住民と来訪者の交流を促すために、「歴史・文化」や「図書」をキーワードにした機能を配置する。



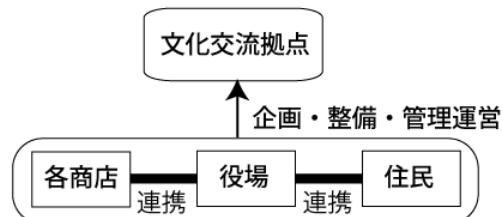
生活者と来訪者の知的好奇心を満たす
【学びの拠点】

■整備の進め方と管理運営

中心市街地活性化の拠点施設とするため、既存の各商店やまいんと連携や機能の再整理を図ることで、まち全体の活性化を目指す。



また、完成後の利用方針や運営・管理などを含め、町民との意見交換会等を実施し、相互理解を深めながら、文化交流施設の整備を進めることが求められる。



■配置平面図

